

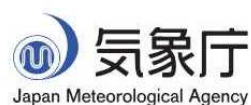
WEATHER DATA ×

BUSINESS

気象データを ビジネスに 活用しませんか？

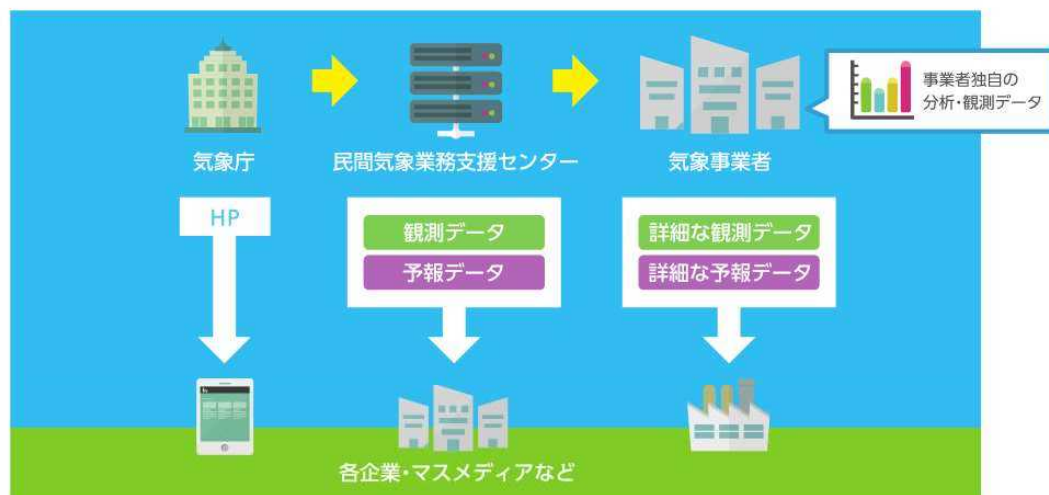
気象は農業、観光、製造・販売さらには消費者の行動など、さまざまな分野に大きな影響を与えます。あなたのビジネスをよりよくするため気象データを活用してみませんか？

国土交通省



気象データはどこから手に入るのでしょうか？

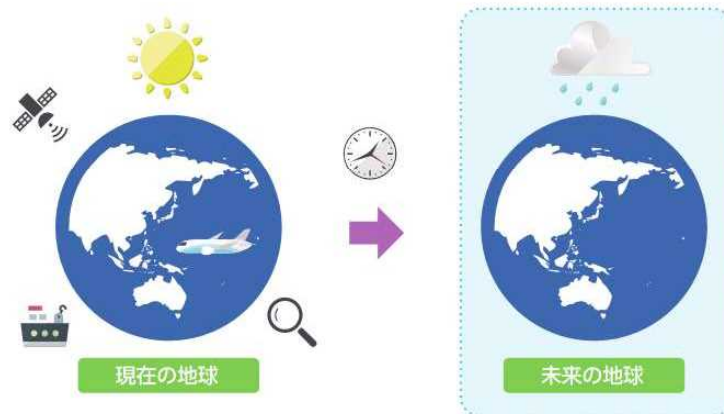
気象庁の気象データは、民間気象業務支援センターを通じて配信しており、一部は気象庁ホームページ（HP）からも入手可能です。また、気象事業者は独自の分析や観測データにより、ユーザーのニーズに合わせた詳細な観測・予報データや使いやすいフォーマットの気象データを提供しています。



気象データにはどんな種類があるのでしょうか？

気象データとは、地球の様子を表すデータのことです。世界中の陸で、海で、空で、そして宇宙からも様々なセンサーを用いて地球を観測しています。気象データは、スーパーコンピューターを用いることで、観測したデータから未来の地球の様子を予測できることが大きな特徴です。

気象データには、過去～現在の観測データと未来の予測データの2種類があります。これらのデータは特定の地点のデータとして提供されたり、地球上の面的・立体的な分布のデータとして提供されたりしています。



気象庁HPについて

気象データについては、気象庁HPに色々な解説資料が掲載されています。また、一部の気象データを機械可読形式でダウンロードできます。

- 気象庁情報カタログ（気象庁の気象データの種類を全て掲載）
<https://www.data.jma.go.jp/add/suishin/catalogue/catalogue.html>
- 配信資料に関する技術情報（気象庁から配信される気象データのフォーマット・変更情報を掲載）
<https://www.data.jma.go.jp/add/suishin/cgi-bin/jyouhou/jyouhou.cgi>
- 気象データ高度利用ポータルサイト（機械可読形式でのデータのダウンロード）
<https://www.data.jma.go.jp/developer/index.html>
- 予報業務許可事業者の一覧（気象事業者の紹介）
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/minkan/minkan.html>



気象データの利活用事例にはどんなものがあるのでしょうか？

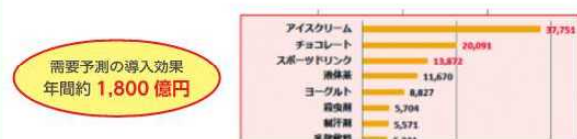


天気や気温に代表されるように、気象は毎日の人の行動や生産活動に大きく影響を与えることから、各企業が持つデータと気象データをあわせて分析することで、毎日の意思決定や業務プロセスを改善・効率化し、生産性の向上に取り組んでいる企業の利活用事例を産業別に紹介します。

ここに紹介した以外の利活用事例は、気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)のホームページに掲載している「気象データの利活用事例集」をご覧ください。 <https://www.wxbc.jp/bizcasestudies/>

販売数予測への利活用

- 小売店で販売されている約200の商品について、気象データや販売実績などを組み合わせてAIによる需要予測を行い、それを基に生産調整して廃棄ロス・機会ロスを削減することにより、約1,800億円の経済効果をもたらすと推計



製造・販売

電力需要予測への利活用

- 気象データ等を用い、AIを活用して電力需要と取引価格を予測し、需要予測に合わせた最適な電力調達計画の作成等を支援



電力

ファッションのリコメンドへの利活用

- その日の気温・天気・降水量や一日の気温差、風速や温度から算出される体感温度等から最適なコーディネート提案
- これに加え、ユーザーが選択したコーディネートからAIが好みのスタイルを学習し、一人ひとりに最適なコーディネート提案



アパレル

生産プロセス最適化への利活用

- 農業へICT、IoTを導入し、圃場の気温・日射量や生育状況等をセンサー、カメラで収集、蓄積して分析等を行うことにより、生産プロセスの最適化、データに基づく収量UP・効率化を実現



農業

天候デリバティブへの利活用

- 精緻な地上観測データが取得できない海外の地域において、気象衛星データを活用した天候デリバティブを提供



保険

販売機会ロス削減への利活用

- 飲料の自動販売機への配送・補充に気象データを活用することにより販売機会ロスを削減



物流

来店客数予測への利活用

- 飲食店で天気予報や曜日、近隣の宿泊者数と、来店客の属性等の自社データを組み合わせて来店客数、メニュー毎の販売数を予測し、売上4倍、利益率10倍を実現した店舗も



小売

ダイナミックプライシングへの利活用

- 気象により景観が映える観光地をプラットフォームに掲載し、地域の観光施策を支援
- さらに、テーマパーク、ホテル、温泉宿等において、雨や雪、気温の状況・予測により料金を割り引くサービスを提供し、需要を喚起



観光

気象ビジネス推進コンソーシアムで ともに気象データの利活用をしませんか？

気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)とは

気象データを活用した新たなビジネスの創出に向け、気象事業者に加えて情報通信、農業、小売、保険など関係する産業界や先端技術に知見のある学識経験者、関係省庁・地方公共団体を構成員とした産学官連携の組織です。

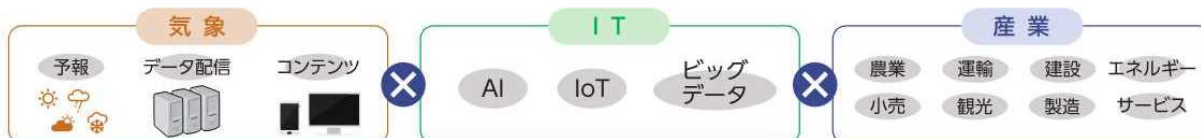


会長 東京大学大学院情報学環 越塚 登 教授

設立 2017年3月7日

事務局 気象庁

産業界と気象サービスがマッチングできる場、気象データ利用のためのスキルアップができる場、そして気象データを用いた産業の未来を展望できる場を提供し、産業界における気象データの利活用を一層推進するとともに、IoT・AI技術を駆使し、気象データを高度利用した産業活動を創出・活性化するべく活動しています。



WXBCホームページ



Twitter (@WXBC_jp)



YouTube
WXBC公式チャンネル



こんな悩みも？

わが社だけでは無理かな・・・



サポート

パートナー発見・マッチングの場

- マッチングイベントへの参加、パートナーと連携
- 会員企業のシーズ・ニーズの発見



どんな気象データがあるの？
活用方法がわからない。



サポート

知見・技術の習得の場

- 調査やプロジェクトへの参加
- 気象関係セミナー・研修への参加



気象データの活用を広げる
にはどうすればよいのか？



サポート

気象ビジネス展望の議論の場

- 社会への提案
- 課題に関する対話への参加



入会手続き

気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)への入会方法の詳細については、ホームページの入会案内ページ(<https://www.wxbc.jp/enrollment/>)にアクセスいただき、「入会のしおり」等をご確認ください。入会費・年会費は無料です。

お問い合わせ先

気象庁情報基盤部情報利用推進課気象ビジネス支援企画室 (気象ビジネス推進コンソーシアム事務局)

〒105-8431 東京都港区虎ノ門 3-6-9 03-6758-3900 (内線 3182)